

政治過程論

明治大学

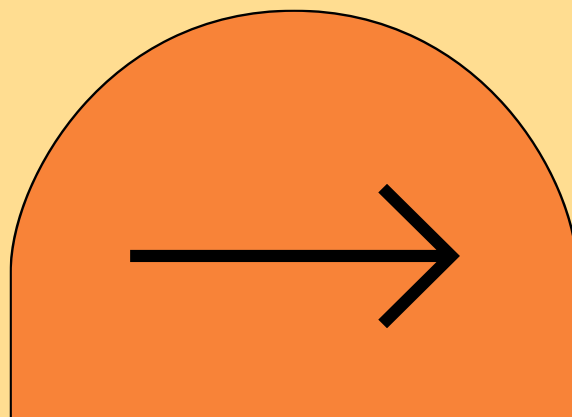
# 論文発表

軽部 将伍



# 概要

論文発表の主な内容



- はじめに
- 研究の問い (RQ)
- 背景と意義
- 研究目的
- 研究仮説
- 調査方法
- 今後の展望

# 研究の問い (RQ)

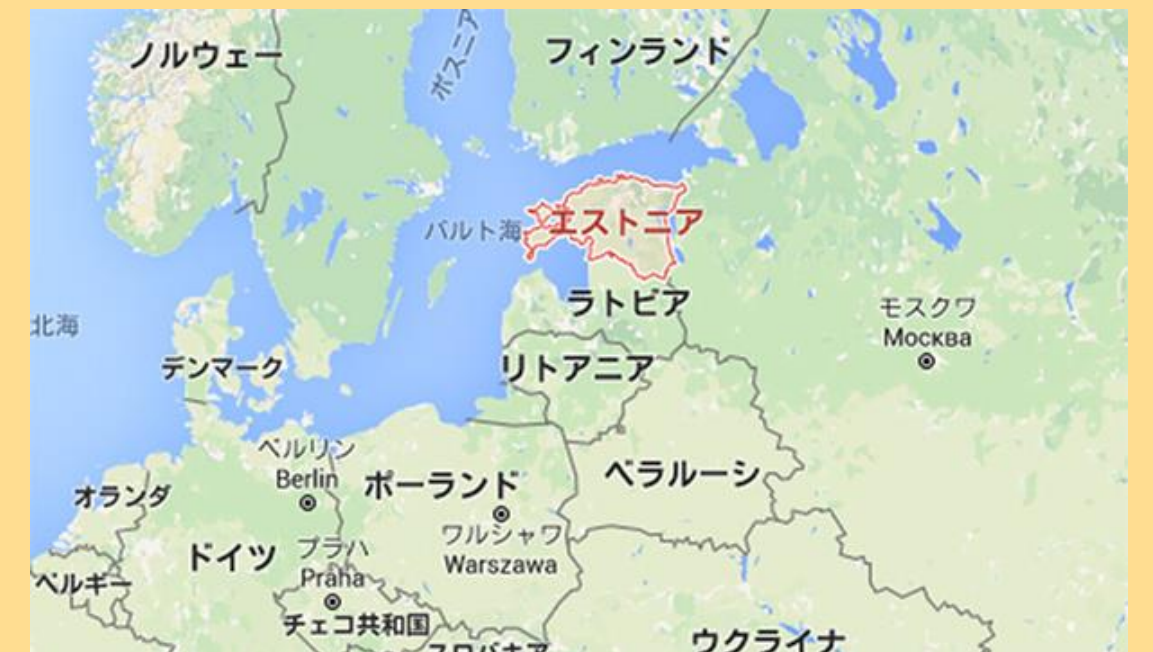
- **オンライン選挙は、投票意向を高めるのか？**
- 政府への信頼と技術への信頼は、投票意向にどう影響する？
- 政府 vs 技術、どちらの信頼がより重要か？
- セキュリティの影響は？
- どんな人が影響を受けやすい？（年齢、ITリテラシーなど）

# 背景と意義

## 背景と意義 (1) - エストニアの事例

エストニアではインターネット投票 (i-voting) が普及。  
先行研究では「政府信頼」「技術信頼」の両方が重要と示唆。

しかし… エストニアは i-voting へのポジティブな経験が豊富。  
この結果はエストニア特有？ (パズル)



# 背景と意義

## 背景と意義 (2) - 日本における研究の重要性

- 日本はエストニアと政府信頼度やデジタル経験が異なる。
- 日本で「政府信頼 vs 技術信頼」のどちらが鍵か？ を明らかにしたい。
- 政策提言へ貢献：
  - 政府はまず信頼回復を目指すべきか？
  - 技術開発・広報を優先すべきか？
- 社会実装の観点から意義深い。

# 研究目的

目的1: 日本でオンライン選挙が投票意向に与える影響を明らかにする。



目的2: 政府信頼と技術信頼の相対的な重要性を検証する。



最終ゴール: 日本でのオンライン選挙導入の意義と課題を見出し、政策的示唆を得る。

# 研究仮説

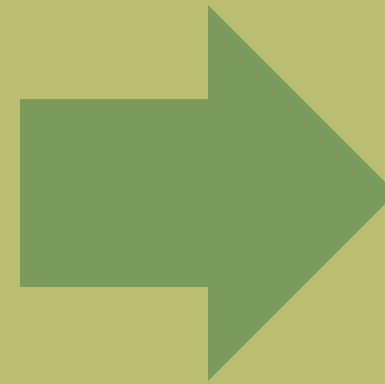
## (1) - 主要変数

調整変数 (M): 年齢、ITリテラシー、政治関心など

### 独立変数 (X)

投票方法 (従来 vs オンライン)

信頼度シナリオ (政府 高/低 × 技術 高/低)



### 従属変数 (Y)

オンライン選挙利用意向

全体の投票意向

## (2) - メイン仮説

H1 (利便性): オンライン導入 → 投票意向 UP

H2 (政府信頼): 政府信頼 高 → 投票意向 UP

H3 (技術信頼): 技術信頼 高 → 投票意向 UP

H4 (相対性): 日本では「政府信頼 / 技術信頼」  
のどちらかがより強い影響を持つ？

## (3) - 条件付き仮説

H5: これらの効果は個人属性で変わる。  
。

若者/IT熟練者 → 技術信頼の影響大？

政治無関心層 → 利便性の影響大？

政府不信層 → 政府信頼操作の影響大？

# 調査方法

## 調査方法 (1) - 概要

対象: 日本の有権者

計画: シナリオ提示型実験  
(参加者をランダムに割り付け  
)

定。

## 調査方法 (2) - 実験デザイン (2x2)

- 統制群: 従来の投票方法のみを提示

- 実験群

- 
1. 政府 高 & 技術 高
  2. 政府 高 & 技術 低
  3. 政府 低 & 技術 高
  4. 政府 低 & 技術 低

## 5調査方法 (3) - 分析と質問項目

投票意向 (全体 / オンライン)

シナリオ評価 (政府信頼度 / 技術信頼度) - 架空の国を設定

既存の信頼度 (政府 / ネットサービス)

個人属性 (年齢、ITリテラシー、政治関心、不正リスク認識 など  
)